

六郷特別出張所管内	
人口	男32,880名
	女31,197名
	計64,077名
世帯数	30,799世帯
平成20年10月1日現在	

六郷わがまち

発行 わがまち大田
 六郷地区推進委員会
 編集 「六郷わがまち」編集委員会
 事務局 大田区六郷特別出張所
 〒144-0055
 大田区仲六郷2-42-2
 電話 03(3732)4885(代)
 FAX 03(3735)6249

多摩川再発見しませんか

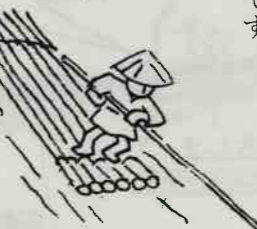
たまりバー50キロ

多摩川河川敷を利用して、羽村市から大田区までの約50kmにわたり、連続して散策路が整備されました。

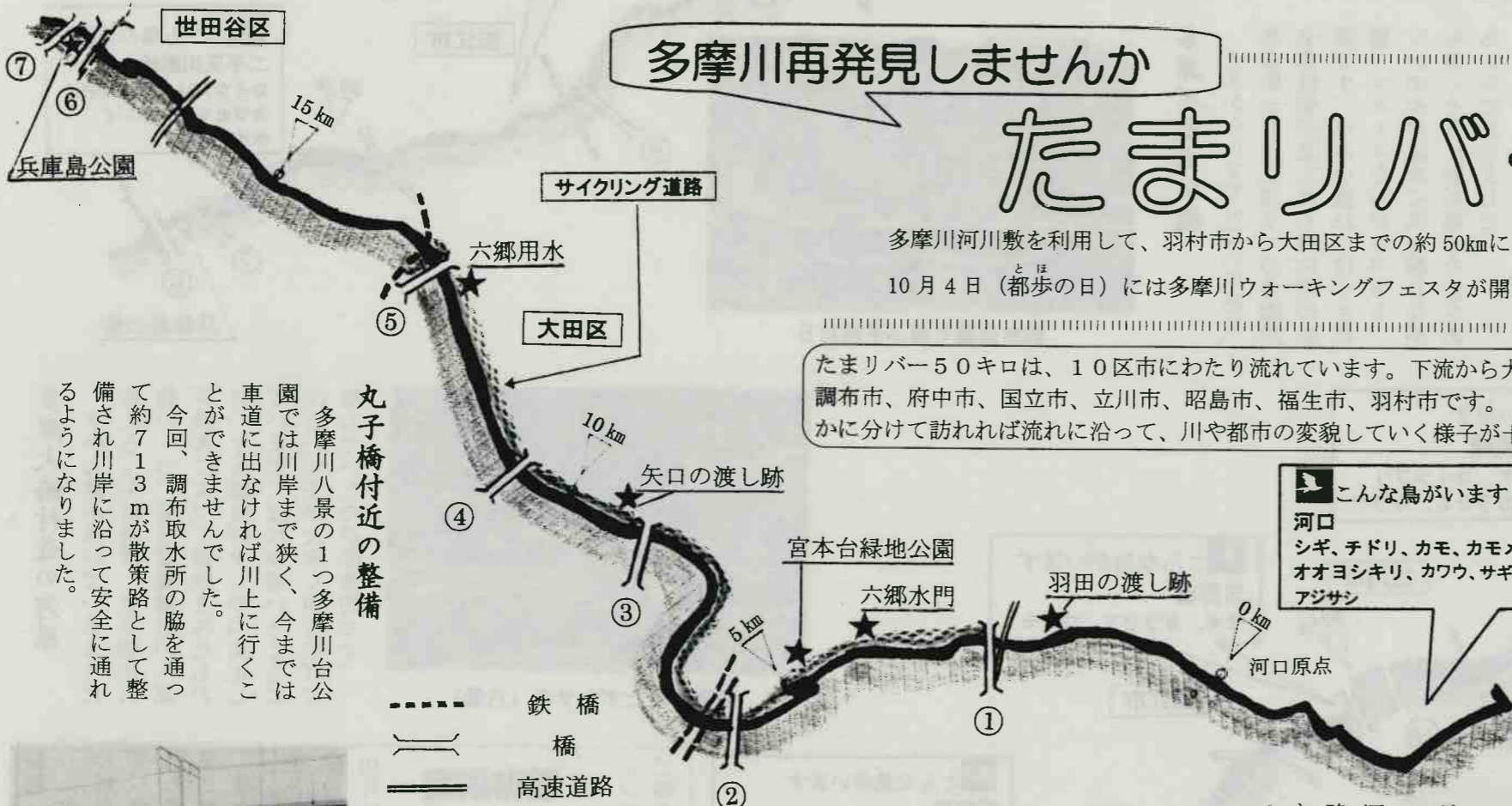
10月4日(都歩の日)には多摩川ウォーキングフェスタが開かれ、大勢の人が参加し、多摩川の自然を歩いて楽しみました。

たまりバー50キロは、10区市にわたり流れています。下流から大田区、世田谷区、狛江市、調布市、府中市、国立市、立川市、昭島市、福生市、羽村市です。1日では無理としても何日かに分けて訪れれば流れに沿って、川や都市の変貌していく様子が十分楽しめると思います。

多摩川
 多摩川の水源地は山梨県甲州市の笠取山(標高1953m)で東京都と神奈川県の間を南東へくだり、東京湾に注いでいます。全長138km、急勾配の流れでたびたび大きな水害を起こしていた暴れ川でした。江戸時代から治水に力を入れ豊かな水量を利用した玉川上水、六郷用水は有名です。



こんな鳥がいます
 河口 シギ、チドリ、カモ、カモメ、オオヨシキリ、カワウ、サギ、アジサシ



丸子橋付近の整備
 多摩川八景の1つ多摩川台公園では川岸まで狭く、今までは車道に出なければ川上に行くことができませんでした。今回、調布取水所の脇を通って約713mが散策路として整備され川岸に沿って安全に通れるようになりました。



丸子橋付近の散策路

- ① 大師橋
- ② 六郷橋
- ③ 多摩川大橋
- ④ ガス橋
- ⑤ 丸子橋
- ⑥ 二子橋
- ⑦ 新二子橋
- ⑧ 多摩水道橋
- ⑨ 多摩川原橋
- ⑩ 稲城大橋
- ⑪ (自動車専用)
- ⑫ 是政橋
- ⑬ 関戸橋
- ⑭ 府中四谷大橋
- ⑮ 石田大橋
- ⑯ 立日橋
- ⑰ 多摩大橋
- ⑱ 拝島橋
- ⑲ 陸橋
- ⑳ 多摩橋
- ㉑ 永田橋
- ㉒ 羽村大橋
- ㉓ 羽村堰下橋

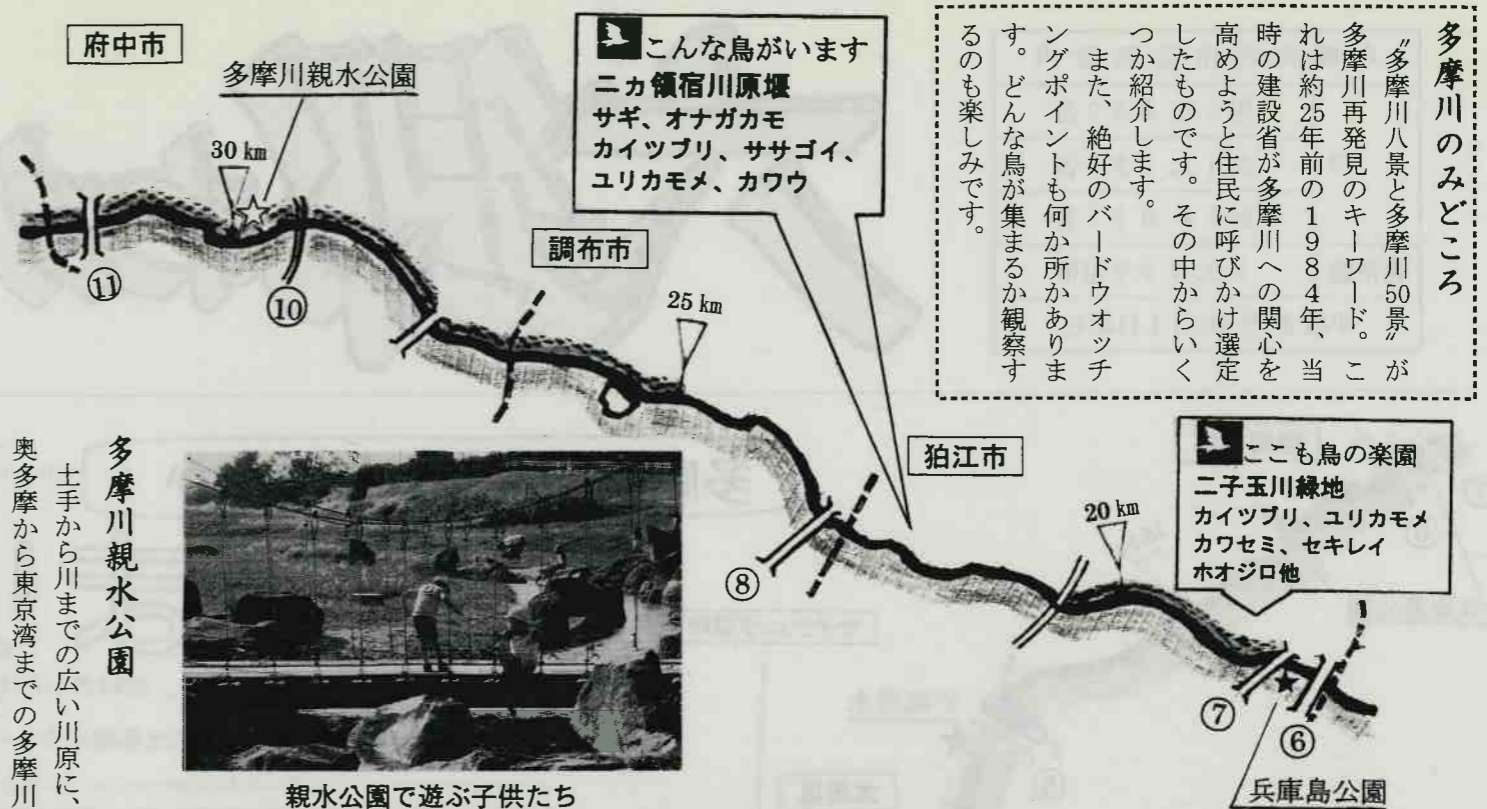
六郷川と筏流し
 多摩川は私たちの町、六郷を流れるときは六郷川と呼ばれています。江戸時代から明治にかけて、奥多摩で伐採された材木も川下りし、河口に近い六郷河岸で筏宿に引き渡されました。材木は通称八幡丸と呼ばれる運搬船で船積みされ活況を呈しました。筏宿は上流の筏師の組合と深川の材木問屋の仲介をするほか、筏師の宿ともなりました。最盛期には4軒、また、八幡丸は40艘を数えたといわれています。

いくつか言えますか
 多摩川にはおよそ50の橋が多摩川にかかっています。たまりバー50キロの羽村堰の間には鉄道橋や高速道路を除くと23掛かっています。いくつか言えるか挑戦してみてください。



羽村堰下橋から羽村堰を見る

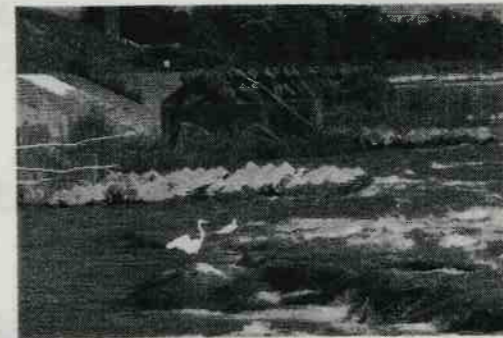
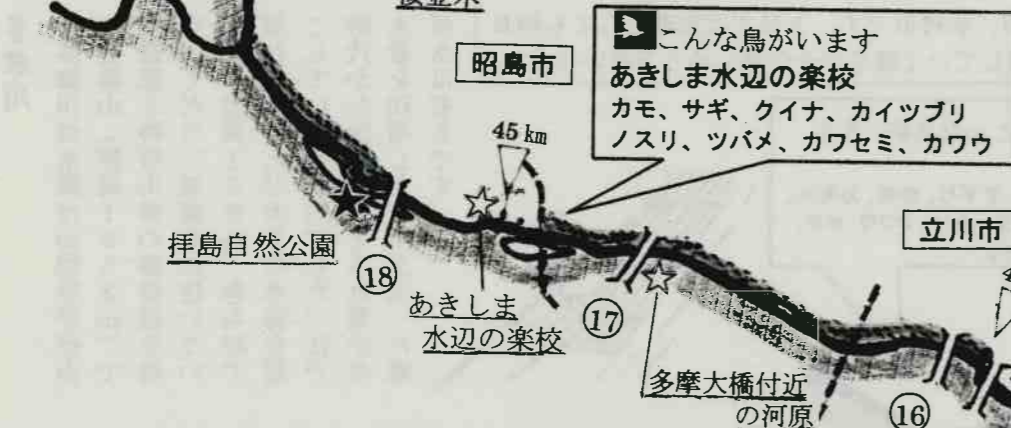
羽村取水堰・玉川上水
 1654年、江戸の人々の飲料水として玉川兄弟により四谷大木戸まで約43kmの玉川上水が完成されました。
 広々とした流れや堰の眺めには思わず歓声を上げてしまいます。近くには羽村市郷土博物館があり、玉川上水や羽村の自然・文化・歴史に触れることができます。



多摩川のみどころ
 多摩川八景と多摩川50景が、多摩川再発見のキーワード。これは約25年前の1984年、当時の建設省が多摩川への関心を高めようと住民に呼びかけ選定したものです。その中からいくつか紹介します。
 また、絶好のバードウォッチングポイントも何か所かあります。どんな鳥が集まるか観察するのも楽しみです。



玉川兄弟像



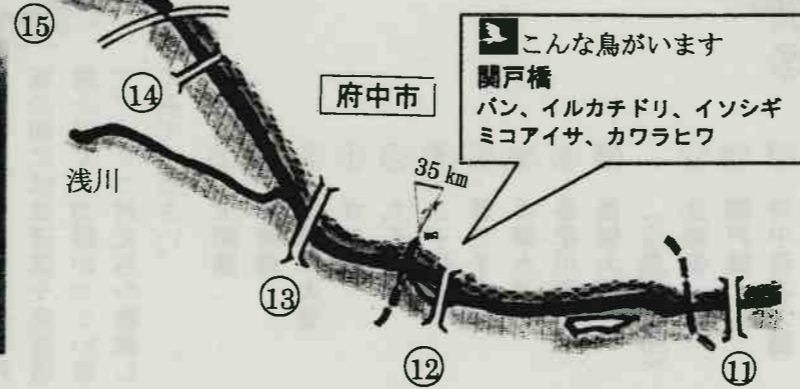
露岩にたたずむサギ (八景)

多摩大橋付近の河原
 牛の大群が泳いでいるように見える「牛群地形」は多摩川八景の一つ。第三記層露岩の一部が洪水によって形成されたもので、今も地形が少しずつ変化しています。流れの速いところに白いサギが大きく羽を広げて飛んでいたのが印象的です。

あきしま水辺の楽校
 ヨシやさまざまな水辺の草木の間を木道が結び、小魚のおよぐ池や湿地帯での自然観察や体験を楽しむ場として、平成15年に開校した河原です。カワセミやサギやカモなどの野鳥も見られ、また幅広い流れが低い滝のようになる日野用水堰付近の景色が楽しめます。



あきしま水辺の楽校



愛称決定 「にこちゃん」

シンボル名の募集にご協力ありがとうございました。

子ども見守り協議会は、明るい安全な地域を築くため平成18年10月に組織されました。

「六郷わがまち」の平成4年の創刊号から平成17年の35号まで、編集委員長として活躍なされた平野順治氏が6月18日に逝去されました。
 謹んで哀悼の意を表します。